

令和5年度の医療費の動向について

厚生労働省保険局調査課
(令和6年9月)

令和5年度概算医療費

- 令和5年度の概算医療費は47.3兆円、対前年同期比で2.9%の増加。令和元年度から5年度までの平均伸び率は2.1%の増加。
- 令和5年度の診療種類別では、いずれの診療種類別も対前年同期比でプラス、令和元年度から5年度までの平均伸び率でもプラスとなった。

診療種類別 医療費の対前年伸び率（対前年同期比）（%）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和元年度～ 5年度の平均 伸び率
総計	2.4	-3.1	4.6	4.0	2.9	(2.1)
入院	2.0	-3.0	2.8	2.9	3.1	(1.4)
入院外	2.0	-4.3	7.5	6.3	1.0	(2.5)
歯科	1.9	-0.8	4.8	2.6	1.9	(2.1)
調剤	3.6	-2.6	2.7	1.7	5.4	(1.8)

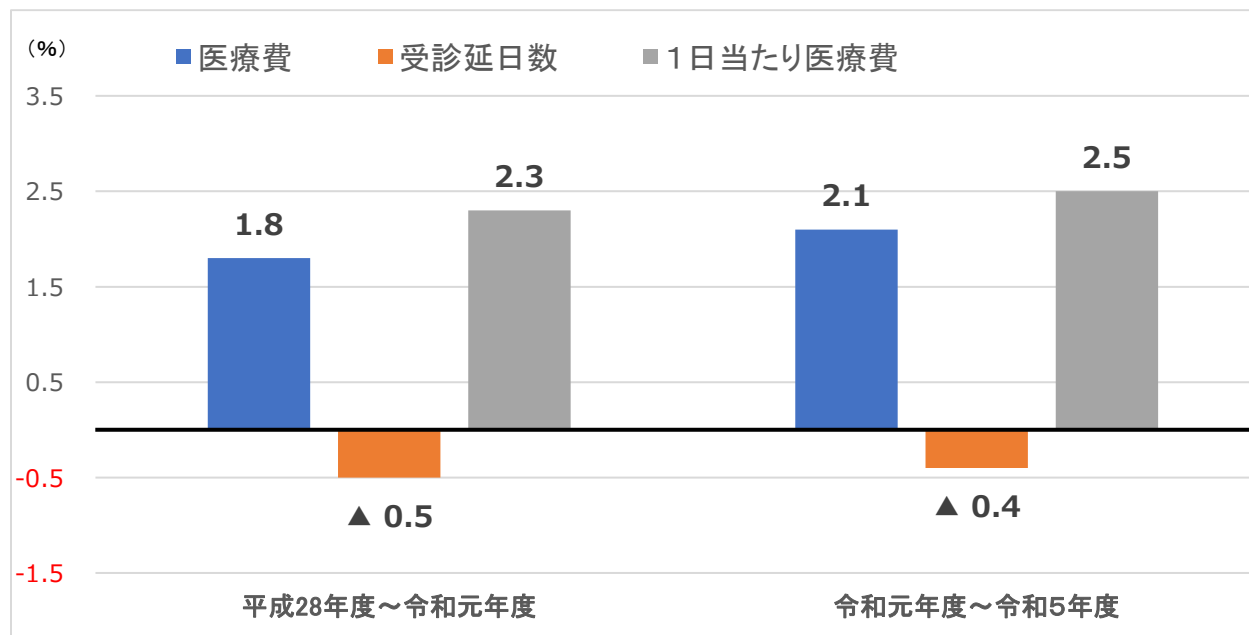
概算医療費の動向

- 令和元年度～令和5年度の概算医療費、受診延日数、1日当たり医療費それぞれの平均の伸びは、コロナ前の平成28年度～令和元年度の平均と概ね似たような動向となり、令和元年度以前の水準に戻つつある。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
概算医療費(兆円)	42.2	42.6	43.6	42.2	44.2	46.0	47.3
伸び率(%)							
医療費	2.3	0.8	2.4	▲ 3.1	4.6	4.0	2.9
受診延日数	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 8.5	3.3	2.0	2.0
1日当たり医療費	2.4	1.3	3.2	5.9	1.3	2.0	0.8

平成28年度～ 令和元年度の 平均伸び率(%)	令和元年度～ 令和5年度の 平均伸び率(%)
1.8	2.1
▲ 0.5	▲ 0.4
2.3	2.5

■ コロナ前後の平均伸び率の比較

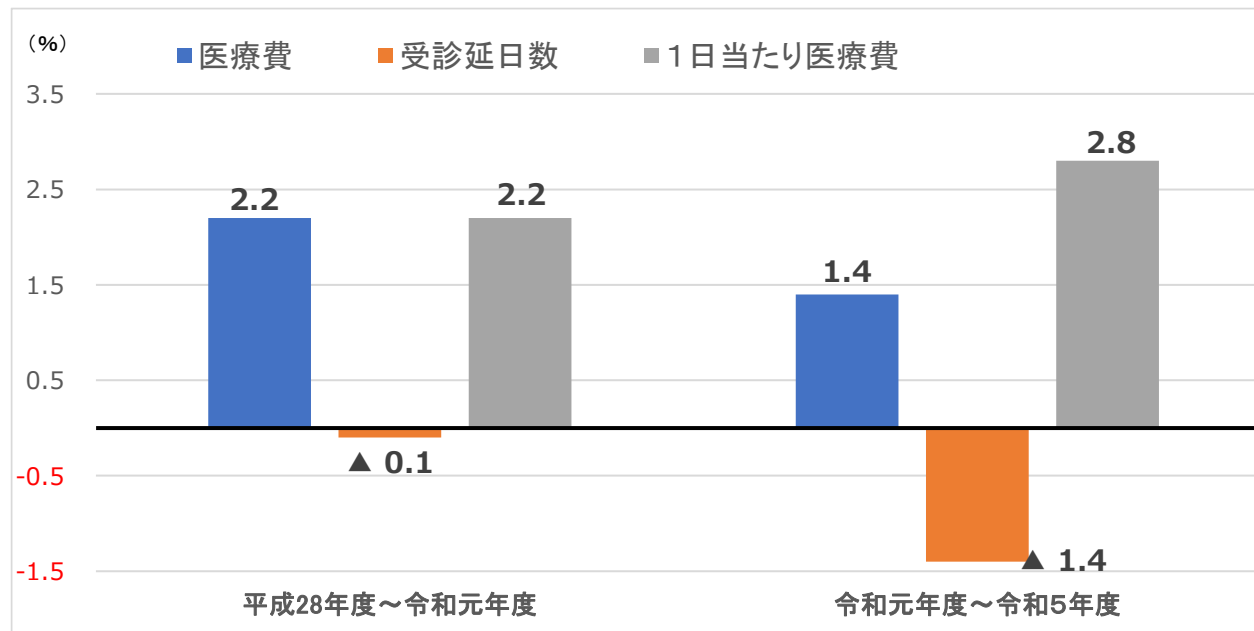


入院医療費の動向

○ 入院については、受診延日数はコロナ前より大きく減少している一方で、1日当たり医療費は増加が続いている。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平成28年度～ 令和元年度の 平均伸び率(%)	令和元年度～ 令和5年度の 平均伸び率(%)
入院医療費(兆円)	17.0	17.3	17.6	17.1	17.6	18.1	18.7		
伸び率(%)									
医療費	2.6	2.0	2.0	▲ 3.0	2.8	2.9	3.1	2.2	1.4
受診延日数	0.5	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 5.6	▲ 1.0	▲ 1.1	2.3	▲ 0.1	▲ 1.4
1日当たり医療費	2.0	2.4	2.3	2.7	3.9	4.0	0.8	2.2	2.8

■ コロナ前後の平均伸び率の比較



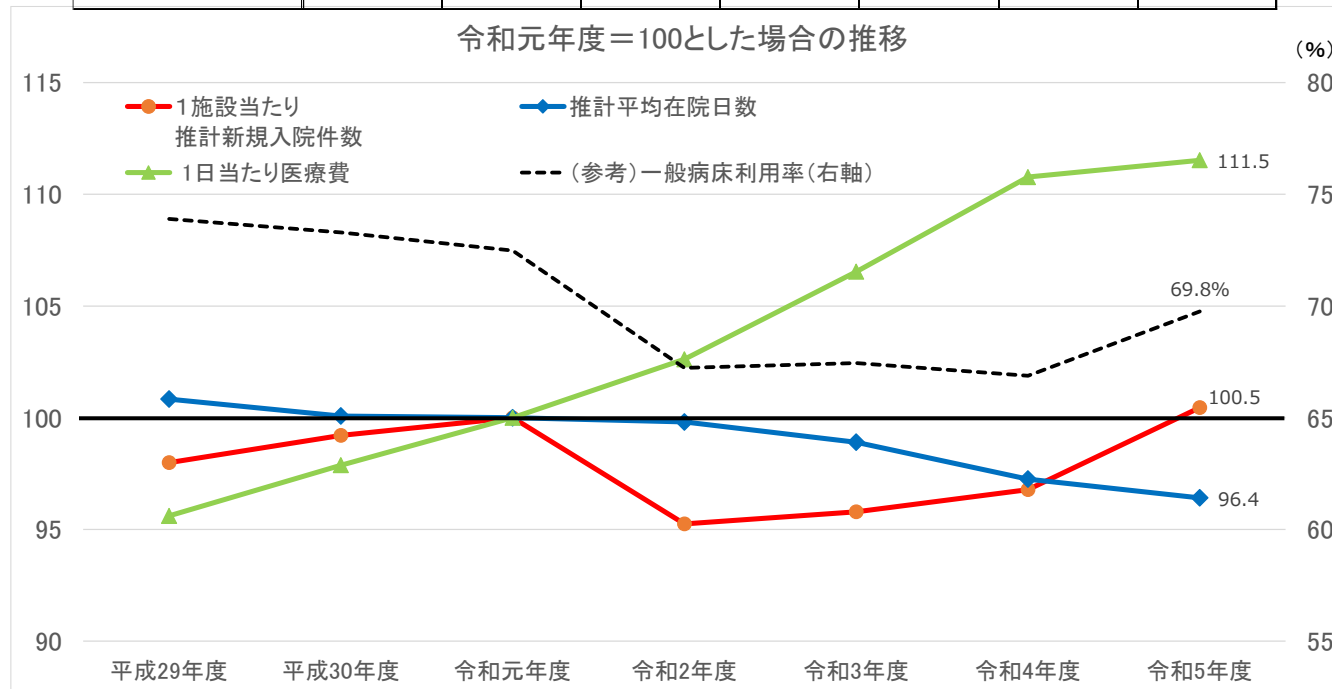
入院医療費の要因分解

- 推計新規入院件数は、コロナで落ち込んだが、令和5年度になってコロナ前の水準を取り戻した。
- 推計平均在院日数は、コロナ以前から短縮傾向にあるが、コロナ後はさらに短縮が進んだ。一方で1日当たり医療費は増加傾向にあり、「入院日数の減と1日当たり単価の増」という構造はコロナ後も継続している。

■ 病院1施設当たり入院医療費の伸び率推移

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1施設当たり入院医療費	3.0	2.9	2.9	▲ 2.4	3.5	3.3	3.6
1施設当たり推計新規入院件数	1.8	1.2	0.8	▲ 4.8	0.6	1.0	3.8
推計平均在院日数	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 1.7	▲ 0.9
1日当たり医療費	1.9	2.4	2.2	2.6	3.8	4.0	0.7



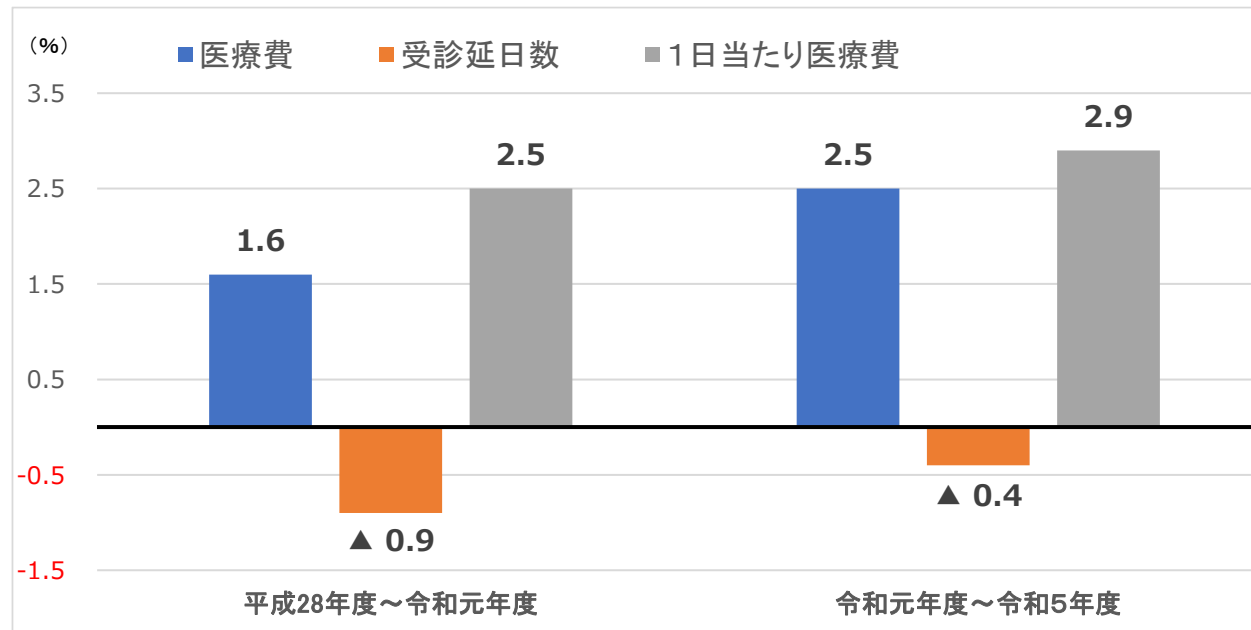
※一般病床利用率の年度平均値は、厚生労働省「病院報告」における毎月の病床利用率を用いた。

入院外医療費の動向

- 入院外については、コロナ前と比べると医療費の伸びがやや大きく、受診延日数の減少幅がやや小さくなっており、また1日当たり医療費の伸びもやや高い。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平成28年度～ 令和元年度の 平均伸び率(%)	令和元年度～ 令和5年度の 平均伸び率(%)
入院外医療費(兆円)	14.4	14.6	14.9	14.2	15.3	16.2	16.4		
伸び率 (%)									
医療費	1.6	1.0	2.0	▲ 4.3	7.5	6.3	1.0	1.6	2.5
受診延日数	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 10.1	4.5	3.1	1.9	▲ 0.9	▲ 0.4
1日当たり医療費	2.1	1.9	3.5	6.5	2.9	3.1	▲ 0.8	2.5	2.9

■ コロナ前後の平均伸び率の比較



入院外医療費の年齢階級別

○ 入院外について年齢階級別にみると、1人当たり受診延日数は、令和5年度は0歳～20歳までで高い伸び率となっているが、1日当たり医療費では大きく減少している。

■ 入院外 1人当たり日数の伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総数	▲ 1.0	▲ 10.0	5.2	3.5	2.9
0歳以上 5歳未満	▲ 3.7	▲ 31.7	25.4	7.9	11.4
5歳以上 10歳未満	▲ 3.1	▲ 26.4	8.6	13.6	23.7
10歳以上 15歳未満	▲ 2.6	▲ 16.6	9.2	11.0	15.0
15歳以上 20歳未満	▲ 0.2	▲ 8.3	10.4	9.6	11.8
20歳以上 25歳未満	▲ 2.6	▲ 7.0	10.5	8.1	3.0
25歳以上 30歳未満	▲ 2.0	▲ 11.9	8.0	7.3	2.4
30歳以上 35歳未満	▲ 1.1	▲ 12.8	7.6	8.7	3.9
35歳以上 40歳未満	▲ 1.2	▲ 11.8	6.5	8.9	4.5
40歳以上 45歳未満	0.1	▲ 9.8	6.1	6.3	3.2
45歳以上 50歳未満	▲ 0.4	▲ 8.2	5.6	4.3	2.2
50歳以上 55歳未満	▲ 0.6	▲ 7.8	4.2	2.9	1.0
55歳以上 60歳未満	0.3	▲ 7.6	5.0	1.4	1.3
60歳以上 65歳未満	▲ 0.4	▲ 7.3	4.2	2.2	1.7
65歳以上 70歳未満	▲ 0.9	▲ 7.5	3.5	2.0	1.7
70歳以上 75歳未満	▲ 3.0	▲ 7.8	1.8	0.7	▲ 0.1
75歳以上 80歳未満	▲ 2.8	▲ 8.9	2.5	▲ 1.0	▲ 1.7
80歳以上 85歳未満	▲ 2.0	▲ 8.7	1.6	▲ 0.3	▲ 0.5
85歳以上 90歳未満	▲ 1.9	▲ 7.7	1.1	0.1	▲ 0.8
90歳以上 95歳未満	▲ 1.7	▲ 5.0	0.2	0.1	▲ 0.2
95歳以上 100歳未満	▲ 3.3	▲ 1.3	1.3	0.8	▲ 2.5
100歳以上	3.2	▲ 7.0	2.1	2.6	3.1

■ 入院外 1日当たり医療費の伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総数	3.5	6.4	2.8	3.0	▲ 0.5
0歳以上 5歳未満	2.2	14.7	13.5	6.6	▲ 11.6
5歳以上 10歳未満	2.2	8.0	11.5	13.8	▲ 10.8
10歳以上 15歳未満	2.3	5.4	6.7	11.4	▲ 6.8
15歳以上 20歳未満	2.2	4.0	9.4	9.3	▲ 4.5
20歳以上 25歳未満	3.1	7.5	10.4	6.3	▲ 6.4
25歳以上 30歳未満	2.6	8.0	8.1	8.1	▲ 5.2
30歳以上 35歳未満	3.0	7.6	6.7	12.7	▲ 3.8
35歳以上 40歳未満	2.7	6.9	5.7	12.7	▲ 3.2
40歳以上 45歳未満	2.6	5.5	4.0	7.4	▲ 2.4
45歳以上 50歳未満	2.6	4.7	2.5	2.2	▲ 0.9
50歳以上 55歳未満	2.7	4.4	2.1	1.6	0.6
55歳以上 60歳未満	2.6	4.3	1.7	1.3	1.2
60歳以上 65歳未満	2.6	4.0	1.0	1.1	1.1
65歳以上 70歳未満	3.2	4.2	1.0	0.7	1.4
70歳以上 75歳未満	4.6	5.1	1.7	1.1	2.0
75歳以上 80歳未満	4.2	5.7	2.5	2.5	3.2
80歳以上 85歳未満	3.8	5.2	2.6	2.0	2.6
85歳以上 90歳未満	3.3	4.6	2.4	2.3	1.9
90歳以上 95歳未満	3.0	4.0	2.9	2.8	1.3
95歳以上 100歳未満	2.9	4.5	4.1	4.4	1.3
100歳以上	2.8	3.4	5.0	5.8	1.3

(注) 電算処理分のみ分析であるため、1日当たり医療費は前頁と数値が異なる。

■ : 変動幅がプラス10%を超える区分

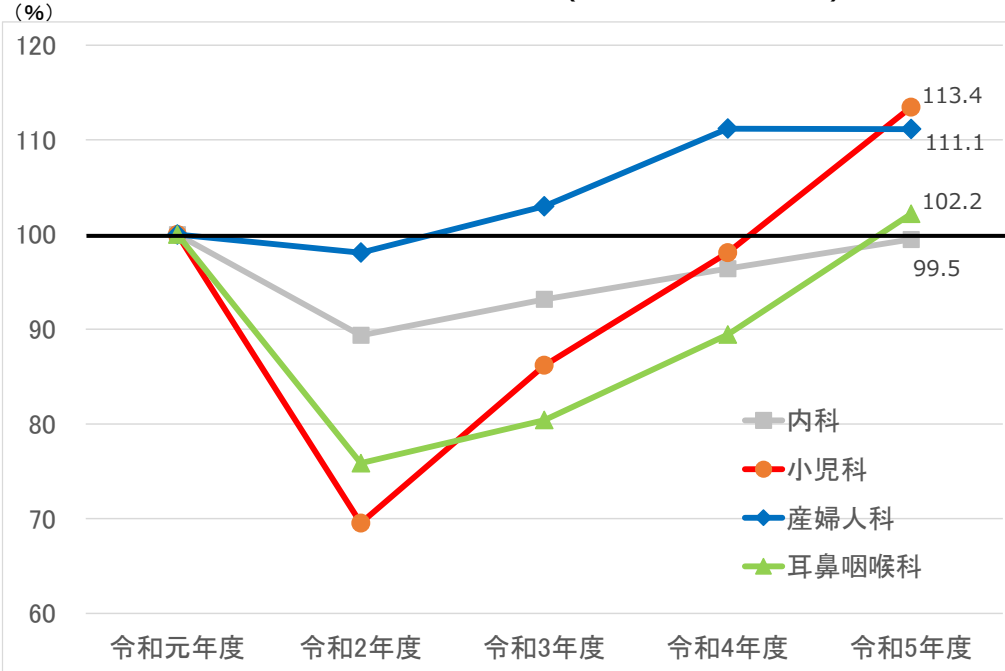
■ : 変動幅がマイナス10%を超える区分

※ 1人当たり日数の算出にあたり、各年齢階級毎の人数は総務省統計局「人口推計」における5歳階級別人口を用いた。

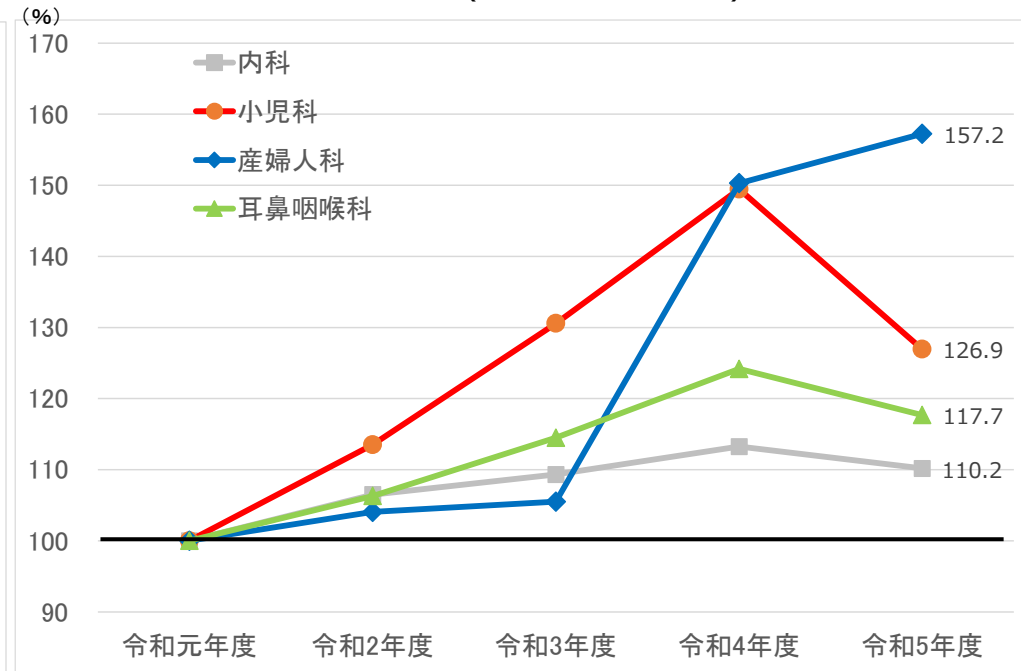
診療所 1 施設当たり入院外医療費 主たる診療科別の動向

- 小児科や耳鼻咽喉科は新型コロナによる影響を特に大きく受けており、伸び率の変動が大きい。それらの診療科では、令和5年度の受診延日数の伸びは引き続き高く、一方で1日当たり医療費の伸びはマイナスとなっている。
- 産婦人科については、令和4年度から不妊治療が保険適用になった影響により、1日当たり医療費の伸びが大きくなっている。

■ 1施設当たり入院外受診延日数推移(令和元年度 = 100)



■ 入院外1日当たり医療費推移(令和元年度 = 100)

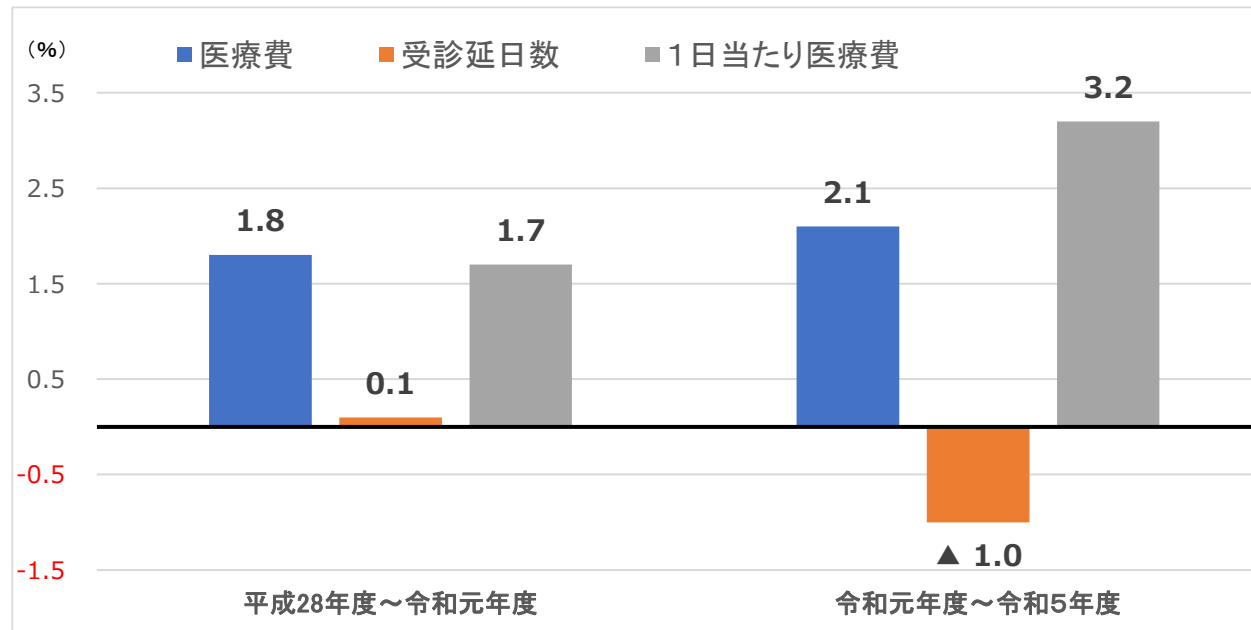


歯科医療費の動向

- 歯科については、コロナ前と比べると、受診延日数の減少が大きく、1日当たり医療費の伸びが大きい。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平成28年度～ 令和元年度の 平均伸び率(%)	令和元年度～ 令和5年度の 平均伸び率(%)
歯科医療費(兆円)	2.9	3.0	3.0	3.0	3.1	3.2	3.3		
伸び率(%)									
医療費	1.4	1.9	1.9	▲ 0.8	4.8	2.6	1.9	1.8	2.1
受診延日数	0.1	▲ 0.1	0.3	▲ 6.9	2.5	▲ 0.2	0.7	0.1	▲ 1.0
1日当たり医療費	1.3	2.1	1.7	6.6	2.2	2.8	1.2	1.7	3.2

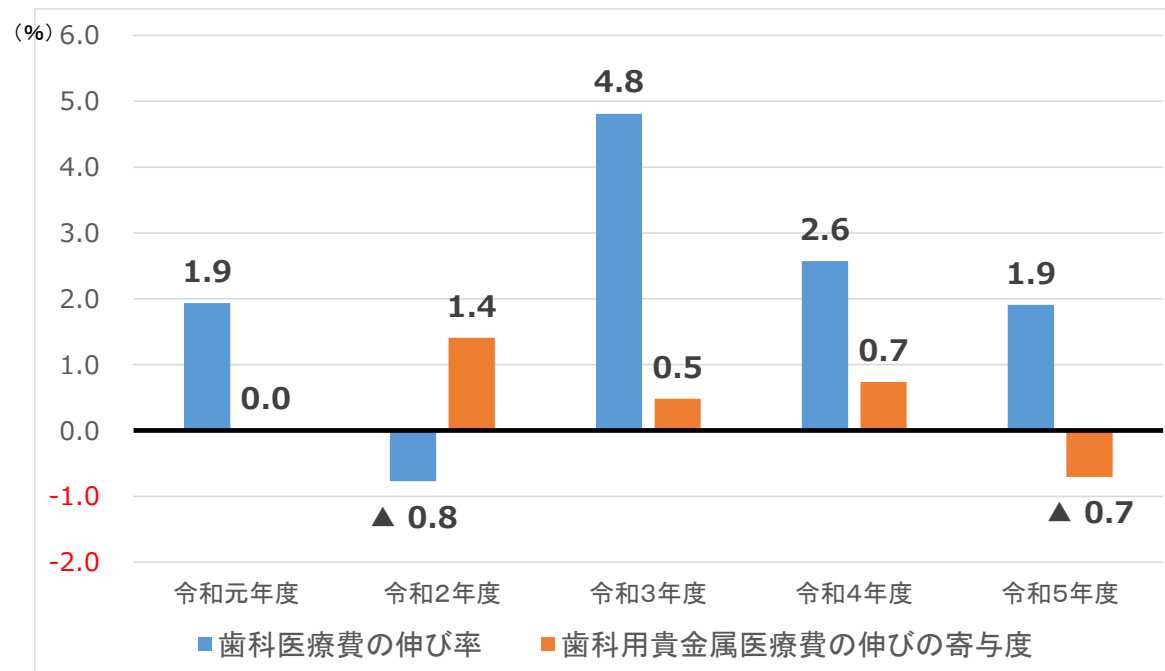
■ コロナ前後の平均伸び率の比較



歯科医療費における歯科用貴金属医療費の寄与度

- 歯科医療費は、治療に使用する貴金属価格に影響を受ける。歯科用貴金属の価格変動が医療費に与える寄与度を見ると、令和5年度は金属価格の下落に伴い、歯科医療費の伸びに占める寄与はマイナスとなっている。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歯科医療費(億円)	30,286	30,053	31,498	32,309	32,925
伸び率(%)	1.9	▲ 0.8	4.8	2.6	1.9
うち、歯科用貴金属医療費(億円)	1,390	1,816	1,960	2,192	1,964
歯科医療費の伸びに占める寄与度(%)	0.0	1.4	0.5	0.7	▲ 0.7



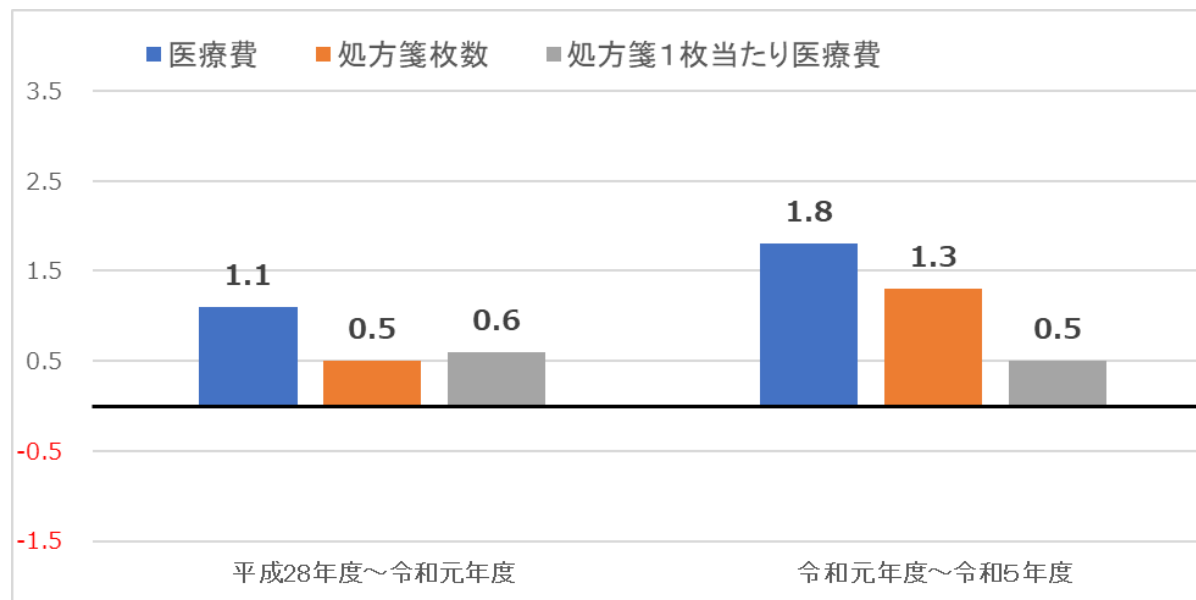
(注) 歯科用貴金属医療費は、電算処理分のみの数値であり、歯科用貴金属価格の随時改定の対象となる特定保険医療材料について集計したものである。

調剤医療費の動向

- 調剤については、コロナ前と比べると医療費及び処方箋枚数の伸びがやや大きく、処方箋1枚当たり医療費の伸びはやや小さくなっている。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平成28年度～ 令和元年度の 平均伸び率(%)	令和元年度～ 令和5年度の 平均伸び率(%)
調剤医療費(兆円)	7.7	7.5	7.7	7.5	7.8	7.9	8.3		
伸び率(%)									
医療費	2.9	▲ 3.1	3.6	▲ 2.6	2.7	1.7	5.4	1.1	1.8
処方箋枚数	1.1	0.6	▲ 0.1	▲ 9.2	4.8	4.4	6.0	0.5	1.3
処方箋1枚当たり医療費	1.8	▲ 3.6	3.7	7.3	▲ 2.0	▲ 2.6	▲ 0.5	0.6	0.5

■ コロナ前後の平均伸び率の比較

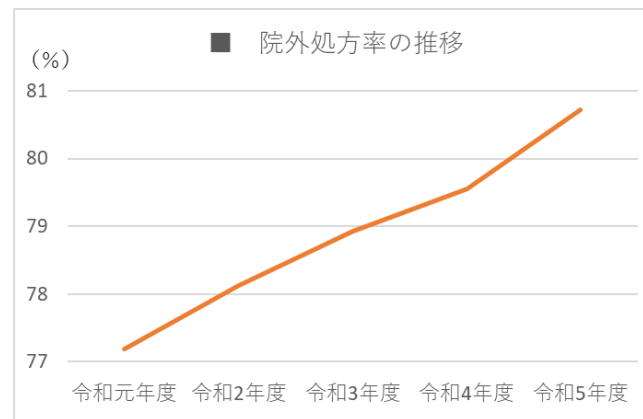
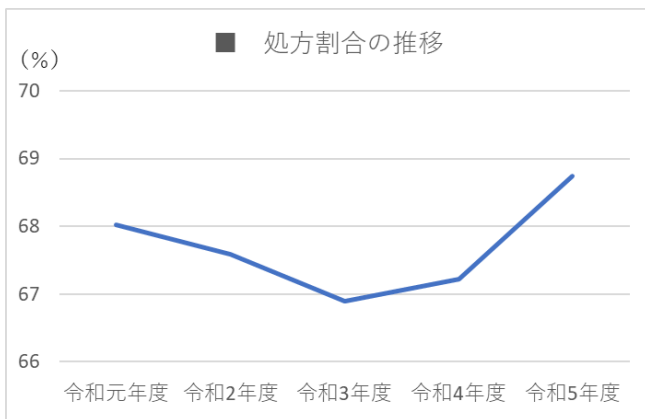


令和5年度 調剤医療費の動向 <処方箋枚数の伸び率>

- 調剤の処方箋枚数は、医科入院外の受診延日数、処方割合、院外処方率の影響を受ける。各影響が調剤の処方箋枚数に与える寄与度を見ると、令和5年度はいずれの寄与もプラスとなっている。

■ 調剤医療費の対前年 伸び率 寄与度 (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
処方箋枚数（注1）の伸び率 (①)	▲ 0.1	▲ 9.2	4.8	4.4	6.0
医科入院外受診延日数の寄与度 (②)	▲ 1.5	▲ 10.2	4.5	3.1	1.9
処方割合（注2）の寄与度 (③)	▲ 0.0	▲ 0.6	▲ 1.1	0.5	2.3
院外処方率（注2）の寄与度 (④)	1.2	1.2	1.1	0.8	1.5
その他の寄与度 (①-②-③-④)	0.2	0.4	0.4	0.0	0.3



(注1) 調剤の処方箋枚数を下記の式で表せるものとした。

$$\text{処方箋枚数} = \text{医科入院外受診延日数} \times \text{処方割合} \times \text{院外処方率} \times (1 + \text{その他の影響})$$

(注2) 処方割合及び院外処方率は、下記の式でNDB（医科入院外）より算出した。

ただし、処方割合については、「処方箋料」又は「処方料」を包括した診療行為が出現する診療報酬明細書を除いて算出した。

$$\text{処方割合} = (\text{処方箋料算定回数} + \text{処方料算定回数}) \div \text{医科入院外受診延日数} \text{〔電算処理分〕}$$

$$\text{院外処方率} = \text{処方箋料算定回数} \div (\text{処方箋料算定回数} + \text{処方料算定回数})$$

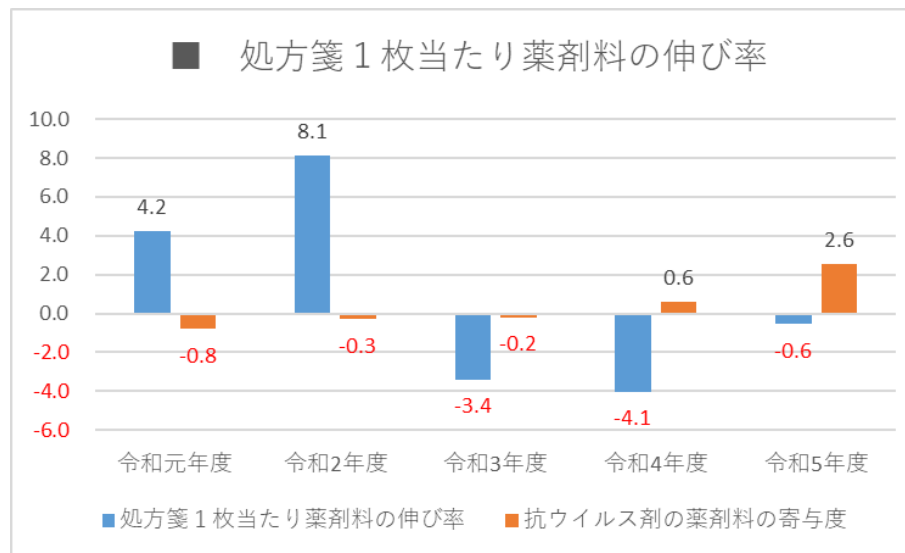
令和5年度 調剤医療費（電算処理分）の動向 <抗ウイルス剤の影響>

○ 令和5年度の調剤医療費（電算処理分）について、薬効中分類「抗ウイルス剤」の薬剤料がプラスの寄与となっており、処方箋1枚当たり医療費及び処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率は前年度より大きい。なお、「抗ウイルス剤」には新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに係る抗ウイルス剤が含まれる。

■ 処方箋1枚当たり医療費及び処方箋1枚当たり薬剤料の対前年 伸び率 寄与度 (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
処方箋1枚当たり医療費の伸び率	3.8	7.2	▲ 2.0	▲ 2.7	▲ 0.5
抗ウイルス剤の薬剤料の寄与度	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.2	0.4	1.9
処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率	4.2	8.1	▲ 3.4	▲ 4.1	▲ 0.6
抗ウイルス剤の薬剤料の寄与度	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.2	0.6	2.6

(注) 医療費及び薬剤料には、国が購入し医療機関及び薬局に無償で提供された新型コロナウイルス感染症治療薬の費用は含まれない。



(参考) 新型コロナウイルス感染症治療薬（ラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバ、ベクルリー）の窓口負担について

- ・各治療薬の薬価収載 ~ 令和5年9月 : 窓口負担なし
- ・令和5年10月 ~ 令和6年3月 : 医療費の自己負担割合に応じた上限額（例：3割負担の方で9,000円）の負担
- ・令和6年4月以降 : 医療費の自己負担割合に応じた通常の窓口負担